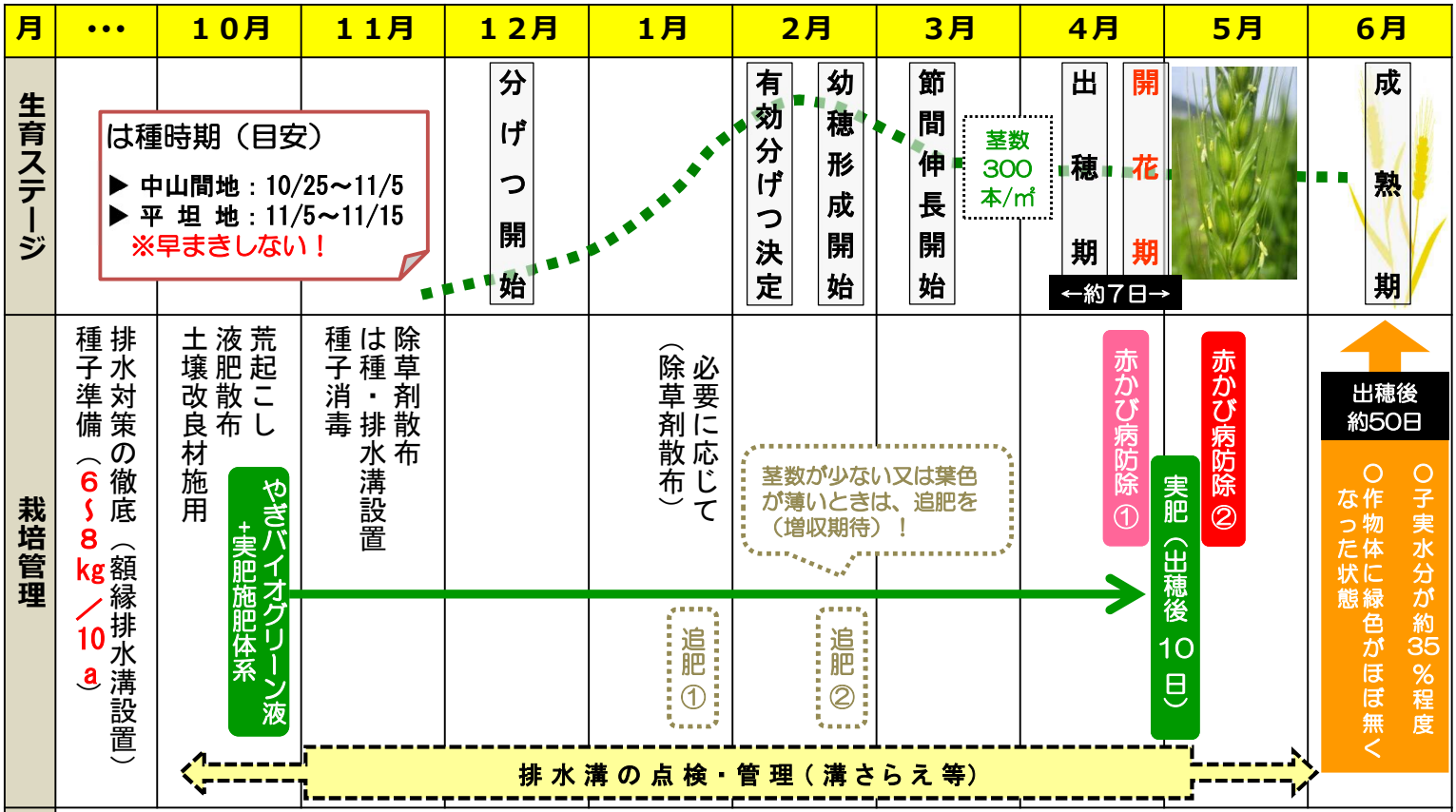
パン用小麦「せときらら」栽培こよみ（やぎバイオグリーン液施肥編）

京都農業協同組合・京都府南丹農業改良普及センター

実需者が求める「ふっくらしたパン」作りには、小麦のタンパク質含有率を高めることが必要です。

【栽培のポイント】
◎排水対策を必ず行いましょう！（麦類は湿害に弱い。収量・品質ともに低下の要因）
◎タンパク質含有率１２％を確保するため、『実肥』を必ず行いましょう！
◎赤かび病防除は必ず２回行いましょう！（赤かび病の汚染粒が混入すると出荷停止になる）

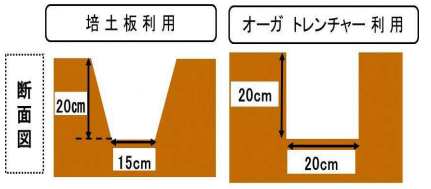
○目標収量300kg/10aを達成するため、生育に応じて『追肥』を行いましょう！（麦は肥料でつくる）
○収穫が梅雨期になるため、刈り遅れに注意しましょう！（穂が雑菌に汚染されて黒色化する場合がある）

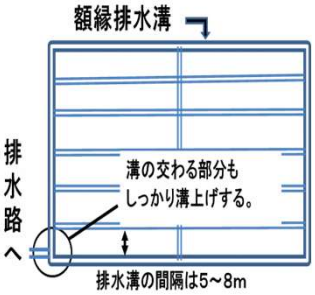


栽培技術の詳細

① 排水対策

▶額縁排水溝を設置する。
▶は種時に5～8 m間隔に深さ20 cmの排水溝を設け、ほ場外部の排水路と連結する。





② 施肥（やぎバイオグリーン液＋実肥）

▶基肥のやぎバイオグリーン液は、基準量を施す。
▶追肥は茎数が少ない又は葉色が薄いときは施用してもよい。
▶実肥は、出穂後１０日（開花期）を目安に施用する。

施用時期		やぎバイオグリーン液＋実肥施肥体系（10 a）	
は種３週間前～10日前		土壌改良剤 土力じまん 100 kg	
は種７日前まで	基 肥	やぎバイオグリーン液 6ｔ（ｱﾝﾓﾆｱ態窒素0.2%）	
①１月下旬 ②２月下旬	（追肥）	①化成肥料 17-0-17 15 kg ②化成肥料 17-0-17 10 kg	必要に応じて追肥
開花期	実 肥	ア 硫安 29 kg（土壌表層施用）	アまたはイのどちらかを施用
		イ 尿素 6.5 kg/100L（葉面散布２回）※赤かび病防除と同時散布が便利	

③種子消毒・は種

▶種子（６～８kg/10a）にトリフミン水和剤を種子重量の0.5%粉衣する。
▶中山間地では10/25～11/5、平坦地では11/5～11/15を目安には種する（早まきしない）。
▶深さ３～５cmで条まきを励行する。

④ 雑草防除

▶生育初期の肥効を確保するため、は種後に除草剤を散布し、雑草防除を徹底する。

⑤ 赤かび病防除

▶汚染粒混入で出荷停止の恐れがあるため、開花期に薬剤散布（２回）を徹底する。

散布時期		
	１回目	開花期（出穂約７日後）
	２回目	１回目防除の７～１０日後

【農薬使用（例）】
▷動力散布機：①ワークアップ粉剤ＤＬ→ ②トップジンM粉剤ＤＬ
▷ブームスプレーヤ・無人航空機：
①チルト乳 剤 ２５ → ②トップジンMゾル

⑥ 収穫・乾燥調製

▶コンバイン収穫の適期は、成熟期から3日程度経ったとき（子実水分が25%以下）。
▶収穫期は梅雨時期のため、天気を見計らって朝露がなくなる時間帯に行う。
▶収穫後はｶﾝﾄﾘｰｴﾚﾊﾞｰﾀ等へ速やかに持ち込む。

令和6年（2024年）12月作成